

震災にあった他院のフォローのため診療情報統合システムで医療情報を共有化
担当医療圏に更なる手厚い医療の提供を期待



村上晶彦 院長

導入経緯

医療情報の充実と医療連携の拡張

岩手県立宮古病院は、沿岸地方では最大規模の総合病院です。地域のセンター的な立場であり、年間約1万2千人の救急患者の治療に当たっています。5年前の東日本大震災の折に、同じ医療圏の地域病院だった岩手県立山田病院が大津波で被災し、一時的に当院が全夜間・休日の救急を一手に引き受けることになりました。そのため、日頃から医師不足に加え他院のフォローで手いっぱいとなり、診療圏域に十分な医療の提供が困難という状況に陥りました。それらを少しでも改善しようと、当院は電子カルテの導入に踏み切ったのです。

現在、山田病院は再稼働しています。ですが、あくまでも仮設であるため、今なお他院のフォローが必要なのが現状です。そこで診療の効率化を図り患者様へ十分な医療を提供するために、当院と山田病院の医療情報を共有できるシステムの導入も検討しました。

システムの情報収集を行ないながら他診療圏域で現場の見学をさせていただいている内に、統合システムの利便性や必要性をより強く感じるようになりました。

視認性・簡便性・拡張性の3拍子

診療情報統合システムの導入を検討する中で、もっとも重要視したのが当院と山田病院の簡便な情報の共有化でした。

統合システムを扱うメーカーはいくつかありましたが、コストや使い勝手、将来の拡張性を視野に入れて考えた時、当院の理想に一番近いシステムを提案して下さったのがアストロステージでした。

近隣の施設から伺った評判や岩手県医療局からもたらされた情報も、アストロステージ社の製品を導入するための後押しとなりました。

導入システム

- DICOM 画像管理システム Nazca
- DICOM 変換ツール Transfer Tool
- 診療情報統合システム STELLAR
- ドキュメント作成&管理システム STELLARReport
- 部門システム ASTRO Launcher

導入効果

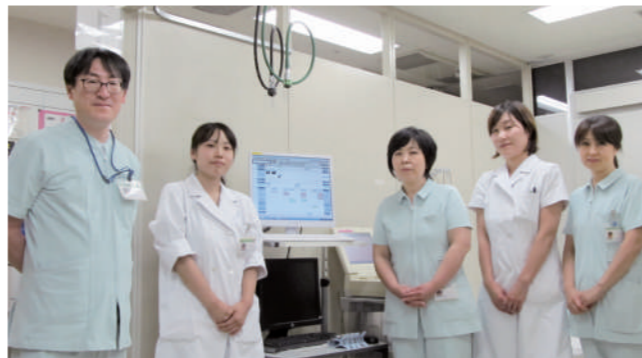
運用フローの効率化

現在当院では、電子カルテと STELLAR を連携させて運用しています。STELLAR で取得できるデータは多岐に渡りますが、それだけで視認性がよいので直観的に必要なデータを開示することができるため、診察時に患者様への説明が大変楽になりました。また、必要に応じて検査データの印刷や電子媒体への保存が可能である事も、診療に大きく役立っています。

更に、今まで紙運用だった検査レポートが STELLAR により電子化されたので、ペーパーレス化の実現と作業効率のよいワークフローの構築が可能となりました。

外来診療においても、エコーデータが STELLAR で取込みカルテと共にプリントアウトができるようになったので、アナログな作業がほぼなくなり看護師に掛かる負担もかなり軽減されました。

診療情報統合システムの導入により、今後は当院と山田病院の両施設で医療情報を共有できるようになります。それに伴い、宮古医療圏という広い診療圏域で、質の良さを追求した医療を提供できるようになるのではないかと期待しています。



宮古病院生理検査室スタッフの皆さん



岩手県立宮古病院：システム導入時期 / Feb 2016



1. 基幹型臨床研修病院
2. 地域災害拠点病院
3. 地域がん診療連携拠点病院
4. 地域周産期母子医療センター
5. 日本病院機能評価 (第3世代) v1.0

平均7台の救急車と1日平均36名の救急患者を受け入れる救急指定病院です。また、災害派遣に対応するDMAT活動をしています。そして、岩手県立山田病院と連携して、山田地域の診療活動や岩泉町小本地区と宮古市の重茂地区の診療所へ医師派遣など、被災地の地域診療支援を行っています。また、ドクターヘリの受け入れも、岩手県内4番目(三陸沿岸では最多)に多い病院です。

所在地：岩手県宮古市崎ヶ崎第1地割11番地26

許可病床数：344床 稼働病床数：297床(結核病床10床含む)

診療科：呼吸器科・消化器内科・循環器科・小児科・外科・整形外科・脳神経外科
形成外科・泌尿器科・産婦人科・神経内科・放射線科・麻酔科・耳鼻科・眼科



今後の期待・要望

近々構築される山田病院とのシステム連携では、STELLAR によって双方の病院のデータ閲覧が可能になります。患者様の為にも、我々医師の為にも効率の良いワークフローを構築でき、より一層質の良い医療を提供する事ができると感じています。

また、現存で稼働しているサーモンケアネットへの参画も検討して頂ければとも感じています。

今後の方針

宮古病院は宮古地域を支える唯一の広域基幹病院として職員と共に励んできました。岩手県では初めての看護科は、PNS@ パートナーシップ・ナースング・システムを取り入れ、「チーム医療」に貢献しております。

宮古病院では口角を上げて「微笑み」で患者さんに接するということを続けてきました。「良い花はあとで咲く」は、未来の宮古病院で働く職員に現在の私達職員が淡々と仕事をこなし努力していくことで伝えられると信じています。

きっと宮古病院に、良い花が咲くと思います。

システム構成図

